福生時間を大切にしたい

福生ライフ Vol.3 2015年12月

福生ライフ

未来を創る福生人

未来を創る福生人

今の福生も好き、でも未来はもっと好きなまち

今号の特集企画では、福生に暮らす福生人、福生で働く福生人、福生で輝いている福生人など、「未来を創る福生人」をテーマに、まちや地域、そして子どもたちの未来創りなど各方面で取り組む方々にご登場いただき、それぞれの立場から福生を語り、未来を語ってもらいました。ユニークで楽しい福生の未来が見えてきます。
インタビューでは皆さんに、福生のまちについての感想、住みやすさ、暮らしやすさ、未来のまちのイメージ、ユニークなアイデアなどについて質問をさせていただきました。

2015 年七夕織姫コンテストの様子

七夕織姫コンテストであいさつする高橋さん（中央）。

福生の未来／海外につながる国際都市

2015 年度「福生七夕まつり・七夕織姫コンテスト」でグランプリに輝き、織姫として福生の PR 活動に活躍する日々を送っている高橋沙織さん。

もっともっとインターナショナルなまちに

高橋 沙織さん（大学生／ 22 歳）

福生は基地のあるまちでもあり、異国情緒にあふれています。市内には米ドルの使えるお店もあって、基地で働く方が街中のお店で食事をされていることも珍しくありません。初めて福生に来た友だちは、福生って楽しいまちね、と言ってくれます。市内は歩いてまわっても十分楽しめる広さ、狭さかな（笑）。先日、テレビを見ていたらタレントさんが“福生って自由人が多くいそう”と言われていました。祭りやイベントが多く、音楽や芸術の好きな方がたくさんいるからでしょうか。私は小さいころから日本舞踊を習っていますが、福生は和洋の文化が楽しめるまちだと思います。伝統芸能から音楽やアートまで、芸術の発表の場がもっとたくさんあればいいですね。
将来は、福生がもっとインターナショナルなまちとして、発展してほしいと思っています。そのためにも、七夕織姫として福生の PR 活動に尽力していきたいです。

福生の未来／
福生の食材で地産地消

学校給食に地元野菜を供給したり、子どもたちに農業を体験してほしいと自身の畑を公開するなど、幅広い食育を推進する村野和男さん。

地元の食材を使って学校給食に品質への気遣いで農家もレベルアップ

村野 和男さん（福生市農業委員会会長／ 67 歳）

福生では学校給食に地元の野菜を積極的に使っていて、子どもたちに新鮮でおいしい野菜を食べさせてあげたいと、市内の農家が協力しています。前日とれた野菜は翌日朝一番に届け、その日の給食に使われます。子どもたちも地元野菜だと残さず食べてくれるようです。農家としては給食ということもあり、品質にはとても気をつかうようになりました。そういう意味では、農家のレベルアップにもつながり、新たな販路としても大きな可能性を感じますね。将来は、供給量を増やし、新しいブランド野菜にも挑戦できればと思います。

毎年９月下旬に収穫を迎える落花生。「量的に難しいですが、いつか給食に出してみたい」と村野さん。

上／給食を調理する様子。
右／地元野菜が使われることもある小学校の給食。

未来に向かう子どもたち
大切な今をイキイキ過ごしてほしい

ナナメの関係で子どもをのびのび育てる

福生の未来／児童館が地域のハブ（拠点）に

中川 洋一さん
（NPO 法人ワーカーズコープ田園児童館長／ 38 歳）

これからの児童館は地域のハブ（拠点）になりたいと考えています。地域と児童館がもっともっと交流し、地域の大人が遊びを教えたり、逆に地域イベントに子どもたちが参加したり。つまり地域全体が児童館のようになり、子どもたちの居場所になれればいいと考えています。遊びだけじゃなく、勉強についても地域の大人がボランティアで教えてあげたりとか、そうしたことによって地域の子どもたちとまた交流が生まれます。地域の大人は上下ではなく、ナナメの関係で子どもたちと接するようにして、未来に向かって子どもたちがのびのび育つよう支援していきたいですね。

子どもたちとは時には兄のように、また友だちのように触れ合っている田園児童館長の中川洋一さん。地域と児童館の交流を積極的に行う。

田園児童館で遊ぶ子どもたち

地域の遊びの達人が「バナナの叩き売り」で子どもたちを笑わせる。

左／石川酒造社屋。下／レストラン

福生の未来／福生の人と魅力をデザイン化し発信する

お酒のラベルデザインをはじめ、フェイスブックや蔵見学ツアーなど広報全般を担当する石川雅美さん。2014年、石川さんが制作したビールのラベルデザインが「ワールド・ビア・アワード（WBA）2014」でアジアズ・ベスト・ラベルを受賞。

福生の“純日本”の魅力を伝えたい

石川 雅美さん（石川酒造㈱営業部広告デザイン担当／38歳）

歴史と伝統のある酒造メーカーに勤めていることもあり、福生の“純日本”の魅力を市内外に伝えていきたいです。仕事では広告デザインを担当していますので、デザインを通して、福生の魅力を表現できたら面白いと思っています。福生には、酒造りのように日本の伝統技術もあり、お茶室や体育施設等も充実、基地周辺のポップな異文化の魅力もあり、と多くの顔があります。そしてまちを愛して盛り上げる熱心な方々も多いので、人や魅力を繋いで輪をつくり、それを日本全国、そして世界へと発信できるデザインをしたいです。

石川さんがデザインしたビールのラベル（上）と新酒のラベル（下）。

日本の伝統とアメリカ文化が共存する賑やかなまちの魅力を内外へ

福生の未来／市外からも多くの人が訪れる週末観光タウン

国道16号線沿いに、アメリカ雑貨とTシャツを販売するショップ「夕陽のTシャツ」を経営する木城高宏さん。

サーモンピンクに染まる福生の夕焼けが好きTシャツの似合うまちって格好いいよね

木城 高宏さん（株式会社ポテト代表取締役／43歳）

福生の魅力は、やっぱり基地があることが大きいと思いますね。そしてTシャツの似合うまちだと思うんです。本当なら東京の片隅にある田舎町なのに、さまざまなアメリカ製品に昔から出会えましたから。アメ車もたくさん走っていました。でも最近は週末やイベントで見かけるくらいで、段々色あせてきた感がありますね。福生って狭いコミュニティの中にいろんなカルチャーが集まっているんですが、下北沢や高円寺のように外部からの文化を受け入れる素地はあると思うんです。だから週末だけでも観光客がたくさん福生を訪れてくれる可能性は高いので、いろいろなイベントを企画していきたいと思っています。それと、街中がサーモンピンクに染まる福生の夕焼けは本当に美しい！　ぜひ一度見に来てもらいたいですね。

サーモンピンクに染まる福生の夕焼け

夕陽のTシャツ

店内にはTシャツ以外にも楽しい物が

福生の未来／みんなが音楽でつながる楽しいまちに

多くの福生市民に参加してもらってCDを作ったり、音楽イベントに参加したりするなど、ユニークな音楽活動を行っている雫衛二さん。

福生まれ★all Stars

市民が参加して一つのものをつくるから音楽とまちが本当に好きになってくる

雫（しずく）　衛二さん（ギタリスト・プロデューサー／43歳）

音楽には肩書きとか常識を取り払う力があります。同時に人と人を結び付けてもくれます。市民参加の新しい関わり方の提案、CD「福生まれ★ all stars」の制作は、まさにその象徴でもあります。多くの市民にレコーディングなど未体験の音楽＆地域プロジェクトに参加していただくことで、音楽、そして地域へ興味を持ってもらえるのではと思いました。レコーディングでは、市民のみなさんも「貴重な体験」として楽しんでもらい、いい結果を生み出していると思います。またVol.1でCD売上の一部を福島へ送るという活動をしていますが、Vol.2では、福島の人たちがレコーディングに参加し、市民レベルでの地域間交流も実現しました。これからも音楽家と音楽が社会と繋がることにより、豊かな価値観を生み出していけたらいいなと思います。

ミュージシャンと市民が一緒になって作りあげた話題のCD「福生まれ★ all stars Vol.1」は福生市公式のお土産物「たっけー☆☆印」として認定。現在制作中のVol.2では、100名以上の市民が参加。

音楽のまち福生で明るく楽しい未来を奏でる

福生の未来／オール福生の音楽祭開催

NPO法人『福生と音楽を楽しむ会』を2014年7月に設立し、福生市民会館で毎年1回音楽祭を開催するなど、音楽を通じて福生を活性化させようと仲間たちと活動している瀬山誠さん。

福生は音楽好きが多いまち未来を奏でる音楽祭開催へ

瀬山 誠さん（福生町食堂そら豆店主＆楽書家（らくしょか）／44歳）

福生は音楽好きな人が多いんですよ。けっこうレベルも高いし、ギターオヤジの割合もほかのまちより高いと思いますね。だから家でくすぶってる人を募って「弾き語り友の会」と題して、7年前から音楽祭を主催しているんです。その際、協賛企業を募ったり募金を集めたりして、保育園や子ども家庭支援センターなどにおもちゃを寄贈したりしています。ボクは福生の空が広いところが好きです。みんな同じ福生の空の下にいるんですから、将来はまちが一つにまとまってオール福生として、まちを挙げての音楽祭をやりたいですね。

自ら経営する居酒屋「そら豆」でも第二日曜日にお客さんが参加するオープンマイク・ライブ（※）を開催しています。
※ 誰でも飛び入りで参加できるステージイベント。

福生の未来／異国の雰囲気がずっと続く未来

国道16号線沿いで、50年代～60年代のアメリカン家具・雑貨を扱うショップ、「BIG MAMA」のオーナーを務める広川恵さん。福生のアメリカンカルチャーの情報発信源とも称される。

異国の雰囲気が漂う国道16号線沿い

やっぱり大切にしたい昔から大好きな福生の空気感

広川 恵さん（BIG MAMA オーナー／42歳）

アンティークの雑貨を仕入れに、よくアメリカに行くんですけど、都会よりも郊外の方が面白いまちが多くあるんです。福生も似たところがありますね。ざっくばらんで気取らないし、ごみごみしない感じで住みやすい。福生の一番の自慢はインターナショナルなところですね。今では約50か国の人が住んでいますから。そんな異国情緒っていうか、ほかとは違う刺激的なところを味わいに来ていただけると嬉しいですね。将来は面白いショップがもっと増えていけばいいかなって思います。米軍ハウスみたいに福生の面白いところもあるので、福生独特の空気感がずっと続くといいと思うんです。

アメリカンな雰囲気の外観が特徴のBIG MAMA

古いものと新しいものを大切にしながら新たな魅力を生みだしたい

福生の未来／伝統と新しい発想の融合で、福生からFUSSAへ

襖や掛け軸の張り替えをする経師屋の仕事を受け継ぎ、現在は、総合リフォーム事業へと発展させた太田泰之さん。

伝統的な祭にも参加者、見学者が多い

毎年7月末に行われる夏祭りでは、お囃子と威勢のいい掛け声が市内に響きわたる。

祭りが大好き、福生が大好き

太田 泰之さん（泰平堂代表／39歳）

祭りが大好き、福生が大好きな自分が好きです（笑）。襖や掛け軸の張り替えをする経師屋（きょうじや）の仕事を受け継ぎ、私で3代目になります。仕事は祖父や父から教わりましたが、あまり伝統職というのは意識することはありませんでした。新しい発想を取り入れて、現在は総合リフォーム事業としてお客様とお付き合いをさせていただいています。私の中では、仕事や祭りも、地元行事への参加を通して、地域を元気にしたいという思いが常にあります。もちろん昔から続くいいものも大事ですが、新しい発想を取り入れなければ発展はないと思っています。祭りなどでも、伝統と新しさの融合を図り、新たな福生の魅力を創っていきたいですね。

福生の未来／もっともっと教育レベルの高いまちへ

子どもたちの英語力を向上させ、英語に強いまちにしたい

加藤育男 市長
昭和29年2月16日生まれ。61歳。早稲田大学社会科学部卒業。日本鋼管、きそば藤屋で就職後、平成15年福生市議会議員就任（2期5年）、平成20年第5代福生市長就任。現在2期目。

福生の教育水準を高め、国際感覚に優れたまちになっていくことが理想

皆さん、とてもユニークで楽しい未来の福生像をお持ちですね。たいへん参考になりました。では、私の考える福生の未来についてお話しさせていただきます。

そもそも、私が市長になろうと思った原点は、子どもたちの教育環境をより良くしたいと思ったことにあります。ですので「教育環境の向上」、それこそが私が描く未来の福生の姿です。例えば平成29年度2学期からは、保護者の皆さんからも要望の多かった中学校給食を実施します。そのために現在、老朽化した既存の学校給食センターの再整備を兼ねた「防災食育センター」の整備を進めています。この施設は、災害時には応急給食の実施や避難所・備蓄機能を備えると同時に、実際に給食を作る姿を見学できるなど、子どもたちが食の大切さも学べる複合型施設になっています。また食物アレルギーに対応した給食の提供も可能としたほか、生野菜の使用など献立の充実も目指しています。

加えて学習面で私が常々思うのは、英語学習の重要さです。私は福生を特に英語に強いまちにしたいと本気で考えています。

子どもの能力には時どき驚かされることがあります。ある幼稚園の話ですが、新しく入った外国の女の子の言語が誰も分からなかったそうです。ところがそれから1か月ほど経つと、日本の子どもが彼女の言葉を理解し、先生たちの間に立ち、通訳になったということです。

こうしたエピソードが明らかにするように、早い段階から積極的に外国語に親しむことは語学力の向上に効果的です。そのためにも、福生市では平成27年度から英語教育を専門とする課長職を特設し、子どもたちの英語力を伸ばすよう取り組んでいます。こうした取り組みを始めているのは東京を見渡しても福生市だけです。

また現場で働く先生方も、外国人の先生と協力し、英語によるコミュニケーションの力が子どもたちに身に付くよう授業を工夫するなど尽力されています。

もちろん、学校教育だけでは英語を使う環境として限界があります。ですが、福生市には横田基地があり、英語が使われやすい環境です。そうした特性も活かし、生きた英語を身につけるために将来、横田基地のなかで子どもたちがホームステイする、なんていうのも面白いアイデアかもしれないですね。

私も福生人の一人として、いろいろな視点・発想から福生の未来を創っていきたいと思います。

福生市からのお知らせ＆耳より情報

防災食育センターの建設工事が始まります

福生市では、福東地区に、避難所・災害備蓄庫・応急給食施設等の総合的な防災機能を備え、平常時には応急給食施設を活用して、市内小中学校10校に学校給食を提供する防災食育センターの建設を進めています（2016年２月着工、2017年９月稼動予定）。

福生市映像制作ワークショップ作品発表

福生のまちの魅力を発見し、映像制作を学ぶ「福生市映像制作ワークショップ」の作品発表会を開催します。福山功起監督の指導のもと11月から約２か月間、参加者が４つのグループに分かれ、福生のまちの魅力を映像作品に仕上げました。各グループがそれぞれ個性豊かな作品を発表します。どんな福生が見られるかどうぞお楽しみに。

発表会は、「ふっさ・ザ・シネマ Vol.4」の前に開催されます。ぜひご来場ください。

【日時】１月10日（日）午前10時～10時45分
【場所】市民会館小ホール（つつじホール）
※入場無料。申込不要。
【問合せ】市民会館 ☎552・1711

ワークショップの様子

平成27年度「未来を拓くふっさっ子学習発表会」を開催

市内の市立小・中学校の教育活動の発表の場である「未来を拓くふっさっ子学習発表会」が開催されます。今回は、「ふっさ『いじめ防止標語』」の表彰式や、生徒たちがいじめについて意見交換する「ふっさっ子いじめ防止サミット」、そして各学校の代表生徒による「小・中学校英語活動発表会」などが行われます。子どもたちの学習活動の成果を見ていただける機会ですので、ぜひお越しください。

【日時】１月30日（土）午後１時30分～４時30分（午後１時20分開場）
【場所】市民会館小ホール（つつじホール）
※入場無料。申込不要。
【問合せ】教育指導課指導係 ☎551・1538

企画・発行：福生市秘書広報課　〒197-8501 福生市本町５　☎042-551-1511（市役所代表）
制作：㈱サンユー・コミュニケーションズ